

講座名	けんりょくしゃたちのしてんからみるせかいいさん				
	権力者たちの視点から見る世界遺産				
主担当 講師	おおしろ みちのり		文学部 歴史学科 外国史学専攻 教授		
	大城 道則				
概要	<p>コロナ禍からいまだ完全に抜け出せたとはいえない昨今、来るべきアフターコロナの時代を見据えて海外の歴史に思いを馳せておくのも良いだろう。まだ行ったことが無い場所、一度は訪れてみたい場所、誰かと一緒に歩きたい場所に一度は立ってみたいという思いは誰しもが持っているはずだ。本講座で毎回取り上げるのは、人類が創り上げた屈指の建造物（それら建造物の多くが世界遺産に認定されている）とそれに関わる権力者たちである。彼らの視点と彼らの生きた時代を通して見えてくる「世界遺産」の持つ意味を受講生の皆さまと考えてみたいと思います。</p>				
回数	全 4 回	受講料	4,000 円	配信 期間	11月
講座 レベル	入門	定員	800 名	講座 形式	オンデマンド形式
第1回	タイトル	ギザのピラミッド（エジプト）と クフ王			
	担当講師	大城 道則 （ 文学部 歴史学科 外国史学専攻 教授 ）			
	内容	今から約4500年前にナイル河の畔のギザ台地に「世界の七不思議」として唯一現存する巨大なピラミッドが建造された。なかでも最大のピラミッドはクフ王のものであった。本講座第1回ではその彼の治世と彼の実像について考える。			
	配信期間	11月 1日 （ 火 ） ～ 11月 14日 （ 月 ）			
第2回	タイトル	万里の長城（中国）と 始皇帝			
	担当講師	角道 亮介 （ 文学部 歴史学科 考古学専攻 准教授 ）			
	内容	紀元前3世紀、秦の始皇帝は北方の遊牧民の侵入を防ぐため、国境に長大な防壁を築いたという。これが「世界最大の建築物」とも称される万里の長城である。本講座第2回では長城を手掛かりに、中華世界と周辺地域との関係について考える。			
	配信期間	11月 8日 （ 火 ） ～ 11月 21日 （ 月 ）			
第3回	タイトル	ヴェルサイユ宮殿（フランス）と ルイ14世			
	担当講師	佐々木 真 （ 文学部 歴史学科 外国史学専攻 教授 ）			
	内容	「ヴェルサイユの宮殿と庭園」は1979年にフランスで最初の世界遺産となった。ヴェルサイユはルイ13世が狩猟のために建築した館を息子のルイ14世が大改築したもので、その規模と内容は後のヨーロッパの宮殿のモデルとなった。本講座第3回では、ルイ14世の意図とともに、王権を表象する宮殿の仕組みを解説する。			
	配信期間	11月 15日 （ 火 ） ～ 11月 28日 （ 月 ）			
第4回	タイトル	サンズーシ宮殿（ドイツ）と フリードリヒ大王			
	担当講師	飯田 洋介 （ 文学部 歴史学科 外国史学専攻 教授 ）			
	内容	ドイツの首都ベルリンから南西に約30km、ポツダム市街の西に広がる庭園のなかで小ぶりながらひととき大きな存在感を放つのが、サンズーシ宮殿である。これを造らせたプロイセン王フリードリヒ大王とは一体どのような人物だったのか。宮殿を紹介しながら彼の人物像に迫る。			
	配信期間	11月 22日 （ 火 ） ～ 12月 5日 （ 月 ）			
参考文献	とくになし				
受講にあたっての留意点	とくになし				